

7つの希望モデル

社会人

人口が減る時代の希望は、ひとつではなく“いくつも”あっていい。

1：最後までここにいる（定住・完結の希望）

- 人口ではなく“暮らしの質”を大切にする
- QOL/QOD（最期の質）を重視
- 看取り・移動・医療・生活の安心が中心
- 選ぶのは“撤退”ではなく“完結”

増えなくてもいい。ここで人生をしめくくれば、それでいい。

☞ 小さくても、静かで確かな生活を守るという強い希望。

2：遺す（記録・文化・風景の希望）

- 町の姿を記録として残す
- 写真・映像・証言・文化的景観
- “観光”ではなく“証言としてのまち”
- 「私たちはただ消えたわけではない」という自己肯定

いまの暮らしを、未来にわたす。

☞ 今の町を“未来の誰か”につなぐ静かな希望。

3：外に託す（合併・移管の希望）

- 閉鎖性バイアスを壊すアクションでもある
- 地域の機能維持を優先する合理的な希望
- “敗北”ではなく“意思決定を手放す”という選択
- 合併・企業連携・大学誘致・外部管理

自分達だけでは難しい。だから、託すという選択をする。

☞ 未来のために、手放す勇気を持つ希望。

4：小さく生き直す（縮退の希望）

- 集落集約、ミニマムインフラ
- スローライフ、低負荷の暮らし
- 人間関係や生活を“ちいさく整える”選択
- 街のサイズに合わせて生き方を変える

大きさより、心地よさ。

☞ 人口減少を“前提”に、新たな豊かさを作る希望。

5：去ったあとに意味を持たせる（非居住者の希望）

- Uターンしない人の希望
- 「ここで育ったことが、今の自分を作った」という感覚
- 住民票がなくても“関係住民”として町を支える
- 実は人口減少社会で最も人数が多い希望

「離れてもつながる」気もち

☞ 離れてもつながる。非定住者の静かな希望。

6：もう何もしない（静かな納得の希望）

- 無理な活性化やイベントを求めない
- 過剰な負荷から解放され、心の安定が得られる
- 終わり方の美しさを重視する生き方
- 年齢に関係なく、選ばれやすい希望

がんばらなくてもいい。静かに、ていねいに終わっていく。

☞ “変えない”ことを選ぶ、成熟した希望。

7：最後まで抗う（象徴的プロジェクトの希望）

- 人口増加・地域再生を象徴的に追求する
- 失敗を恐れず、町の誇りを守る
- 若者や企業を巻き込む「旗」を立てる
- 選べば強い推進力が生まれる

できないと分かっているけど、やらないよりはやる。

☞ “希望を守るために戦う”という力強い希望。